

(4) 様式 4_助成事業実施報告書

令和 3 年 8 月 31 日

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人 日本消防ピアカウンセラー協会

代表者・役職名 氏名 理事長 安達健治

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度)。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

消防ピアカウンセラー養成事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など) 180文字程度まで

この法人は、2016 年に設立し、全国の消防職団員を対象に、増加しつつある惨事ストレスに対して、ここでのケアサポート及びピアカウンセラー(仲間同士カウンセリングを行う者)の養成を行う等により、消防職団員等相互の信頼感の快復や連携の円滑化を図り、安全迅速な救援活動ひいては防災に強い地域社会づくりに寄与することを目的としています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

消防職団員は、新型コロナウイルス感染症患者等の救護を行うことによる惨事ストレスの急性ストレス反応が生じています。疲弊した同僚のメンタルヘルスケアを行うためには、外部の専門家にケアを施していく手立てもありますが、消防職団員は中々胸襟を開いて本音を語らないことから、同僚のピアカウンセラーを育成しそのカウンセラーによるケアを実施するために養成講座を開講します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

消防ピアカウンセラー養成は、コロナ禍の為、対面での養成講座開講は不安なことから、ZOOM を活用した WEB 講座に切り替え非対面式の養成講座を開きました。受講者は、講座受講前に ZOOM のトライアルと練習会を終えて、e-ラーニングで惨事ストレスの基礎知識と積極的傾聴の技術を学んだ後に本講座を受講しました。本講座は、2 日間に渡り傾聴の実習を学び、講座修了後に認定試験を終えて合格後に消防ピアカウンセラーに登録されております。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300 文字程度まで

消防ピアカウンセラーを 14 名養成し、全国各地の消防本部に配置しております。特にコロナ禍において救急隊員の疲弊は増幅するばかりであり、メンタルヘルスケアが重要となっております。市民の生命を守るために強い使命感と責任感を持って業務に励んでいますが、惨事ストレスによって疲弊してしまうと、鬱になり急性ストレス反応から休職へと追い込まれると、市民のために働くことができず、市民サービスの低下につながることを防ぐために消防ピアカウンセラーが疲弊した同僚に対して積極的傾聴を行い、救急隊員や消防隊員の元気を取り戻せる手立てとなつて活躍できております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300 文字まで

消防ピアカウンセラーの養成は、全国 726 消防本部に最低 1 名ずつ配置できることが理想であります
が、現実はまだまだ程遠い状況にあります。

今後は、色々な媒体を活用して受講者の募集に力を入れて養成講座を継続させていきたいです。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

別途画像記録報告書